

タヌキモ

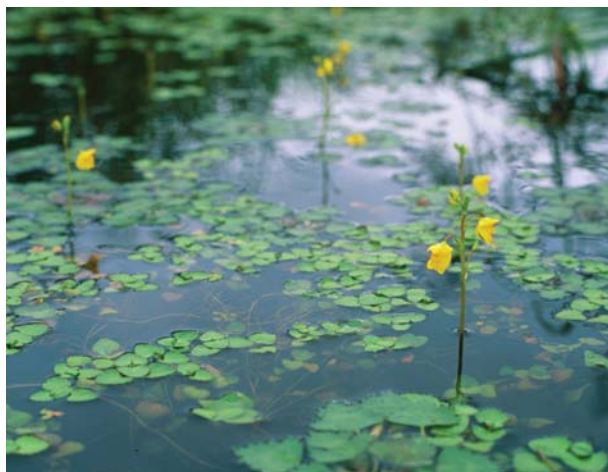
Utricularia vulgaris var. japonica

タヌキモ科

名前の由来

タヌキモは水中の葉が狸の尾に似ていることから名付けられた。漢字名：狸藻

※使用写真はタヌキモと表記するが、イヌタヌキモ、オオタヌキモの可能性もある



タヌキモ

特定種

国レッドリスト (2007) : 準絶滅危惧 (NT)

北海道レッドデータ : 希少種 (R)

形態的特徴

根を持たず、水面近くを漂う浮遊植物。枝分かれしながら成長し、長さ1mを超えることもある。茎は直径2~3.5mm、葉は茎に互い違いにつき、まず基部で2本に、さらにそれぞれが3~4本に糸状に細裂する。葉の長さは2~4cm。葉には多数の捕虫囊がつき、その長さは2mm内外。花期には水面から高さ10~30cmの茎が立ち上がり、2~13の黄色い花が次々と咲く。花の色は黄色で、花びらの一部に朱色の筋

が入る。花をつけた茎(花茎)の断面には、中央部に1mm程の穴がある。日本では確かな結実例がないといわれており、果実や種子の形態は不明。タヌキモのように水中で生育する水草類では、種によっては未展開の葉が密集した殖芽(しょくが)を茎の先端につけ、越冬や増殖に利用する。タヌキモの場合、秋遅くに茎の先端に暗緑色の長径1.2~2.0cm、短径1.0cm~1.5cmの球状の殖芽をつけ、越冬する。



タヌキモ。水面近くを漂う浮遊植物



タヌキモの花。黄色の花弁に朱色の筋が入る

類似種と見分け方

タヌキモ属の種。葉が糸状の他の水草類。北海道に生育するタヌキモ属はタヌキモのほか5種。特にイヌタヌキモ、オオタヌキモとはよく似ており、見分けるのは難しい。イヌタヌキモの茎は直径0.3~2mmでタヌキモより細い。タヌキモの花茎が茎よりも太くならないのに対し、イヌタヌキモの花茎はしばしば茎よりも太くなり、断面には穴はない。殖芽の特徴もやや異なり、タヌキモのように秋遅くに茎の先端に殖芽をつける場合もあるが、夏に葉のわきから出た短い枝の先端に小さめの殖芽をつける場合もある。また、イヌタヌキモの殖芽を形成している葉に

はとげ状の毛がある。今まで国内でタヌキモとされてきたものの多くが実はイヌタヌキモだという説、また、イヌタヌキモとタヌキモを同種として扱う説がある。オオタヌキモとは、オオタヌキモでは下側の花びらの縁が著しく垂れる、葉や捕虫囊が大きい(葉の長さが5.0~6.0cm、捕虫囊の長さが3mm内外)、タヌキモでは軸と枝分かれのほぼ中央に捕虫囊がつくのに対しオオタヌキモは軸よりにつく、などで見分けるが、特徴があいまいな場合もあり難しい。葉が糸状の他の水草類とは、捕虫囊があるかないかで見分けることができる。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期(不明)												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

湖沼や池に生育する。

分布：国外分布は、なし（日本固有種）。

国内分布は、北海道から本州。

道内分布は、全道。

十勝地方では、湖沼や池に生育している。



タヌキモの群落

生活史

開花時期：7～8月

寿命：多年草

開花までの年数：不明

他生物との関わり

捕虫囊でミジンコ等の水中の小動物を捕まえて栄養を取る。

興味深い話

■タヌキモは水中を漂う浮遊植物で根は無いが、稀に地中に固着しているものもある。

■葉に多数付いている捕虫囊でミジンコ等の小動物を捕まえて栄養を取り、また他の植物と同様に光合成も行う。

■捕虫囊は単なる袋ではなく、水中の微生物をとらえるための巧妙なシステムを持っている。捕虫囊の中には吸収毛と呼ばれる毛があり、排水と消化吸収の働きを持っている。また、捕虫囊の入口の周辺には感覚毛と呼ばれる毛があり、アンテナの役割をする。普段、入口は閉じ、袋にたまった水を常に排水しているので、袋は押しつぶされた状態になっている（掃除機で袋の中の空気を抜いたのと同じ状態）が、アンテナに虫が触れると、瞬時に入口が内側に開き、虫は水と一緒に袋の中に吸い込まれる。その後入口は再び閉じ、虫は閉じ込められる。吸収毛が袋の中の水を排水するので虫は窒息死し、押しつぶされるようにして消化吸収される。消化吸収されたあとの虫の死骸は袋の中にたまるので、虫を捕らえた後の捕虫囊は黒く見える。また、死骸がたまってしまいうので、次々と新しい捕虫囊をつくる。入口の開閉はとても速く、ある実験結果では開くのは1/160秒、閉じるのは1/40秒だったという。

■タヌキモの仲間は、観賞用の水草として用いられており市販されている。

■同じ食虫植物のモウセンゴケ科の仲間でもジナモ（貉藻）がある（むじなとはたぬきのこと）。この種の名前の由来はムジナに似ていることから名付けられ、タヌキモとムジナモは科が違うにもかかわらず、外見は似ている。

■しばしば混同されてきたイヌタヌキモは、日本のほかユーラシア、アフリカ、オーストラリア、国内では北海道から琉球諸島まで分布し、タヌキモよりも分布域が広い。



タヌキモ。狸の尾のように丸長で、水面をフワフワしている

配慮事項

タヌキモは水域の水深5cm程度の箇所から、水深100cm程度の箇所で見ることが多い。また、水質的には窒素やリン酸が少ない腐植栄養または貧～中栄養の水域に適している。

タヌキモは日本や北海道で絶滅のおそれのある種に指定されている。タヌキモが生育できるような水域は年々減少している。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本水草図鑑」角野康郎 文一総合出版 1994

『食虫植物研究会』（日本歯科大学 生物学研究室内）

<http://homepage1.nifty.com/IPS/index.htm>